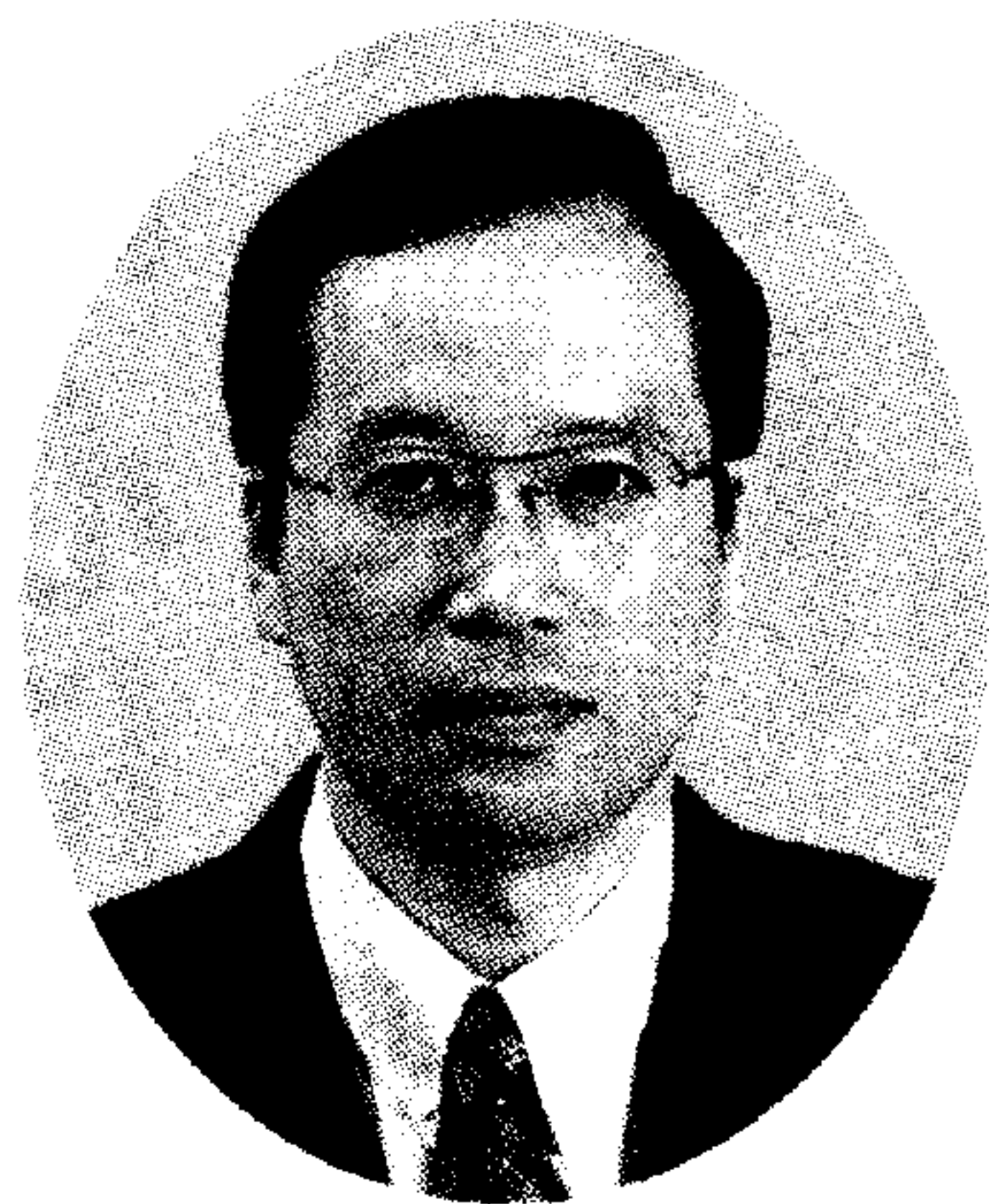


複式簿記を紹介した最古の書物

ルカ=パチョーリ著

算術、幾何、比及び比例総覧



貴重な初版本(1494年)を購入

解説

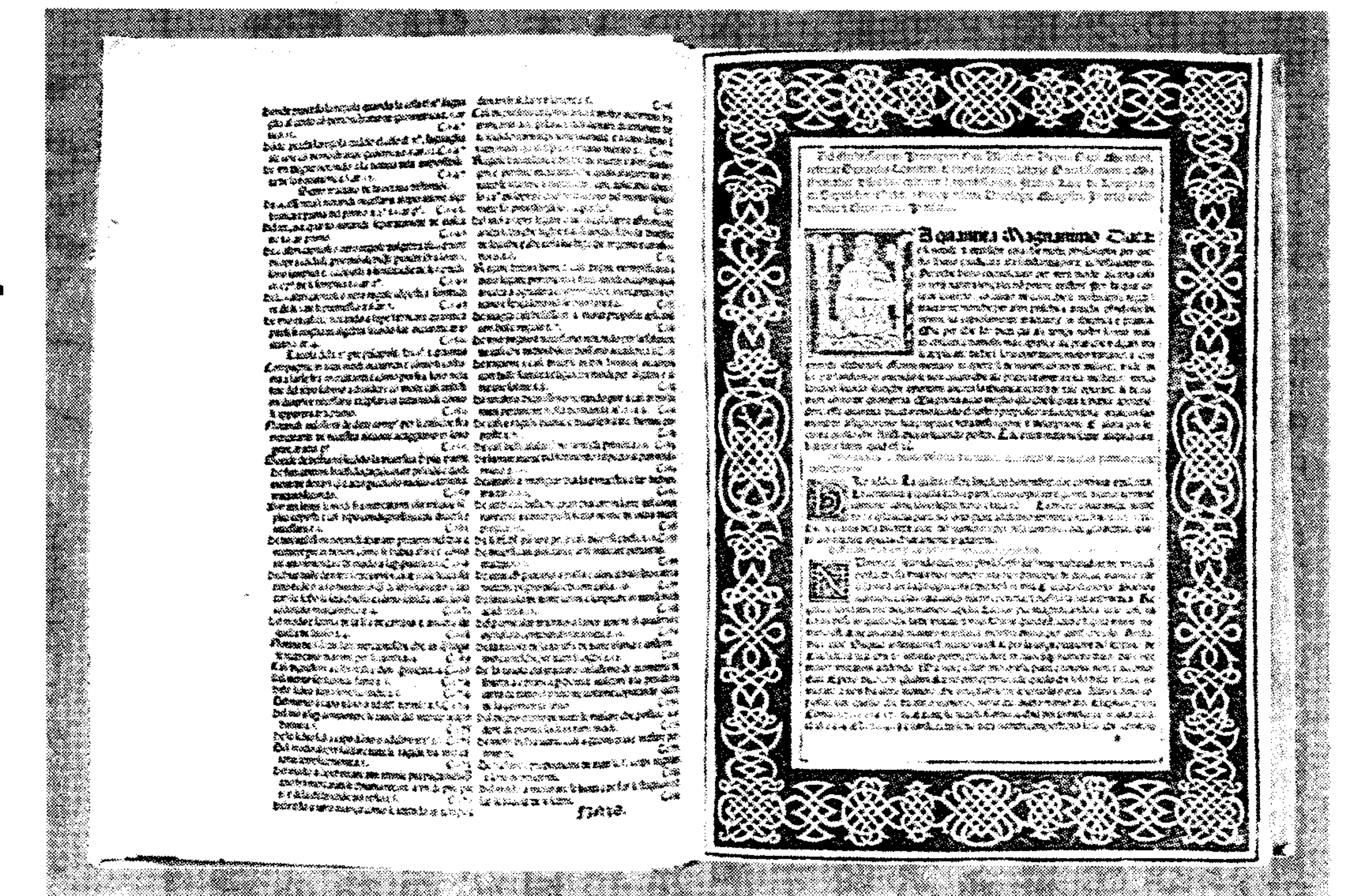
商学部教授
佐々木 重人

ルカ=パチョーリ著『算術、幾何、比及び比例総覧』初版(1494年)は、複式簿記を紹介した最古の書物であると同時に、西洋書誌学上、近代印刷確立前の揺籃期本の一つに数えられる。現存する初版本約100部のうち、日本国内で所有が確認されているのは、専修大学図書館を含めてわずか10部ほどにすぎない。

「会計の父」ルカ=パチョーリ

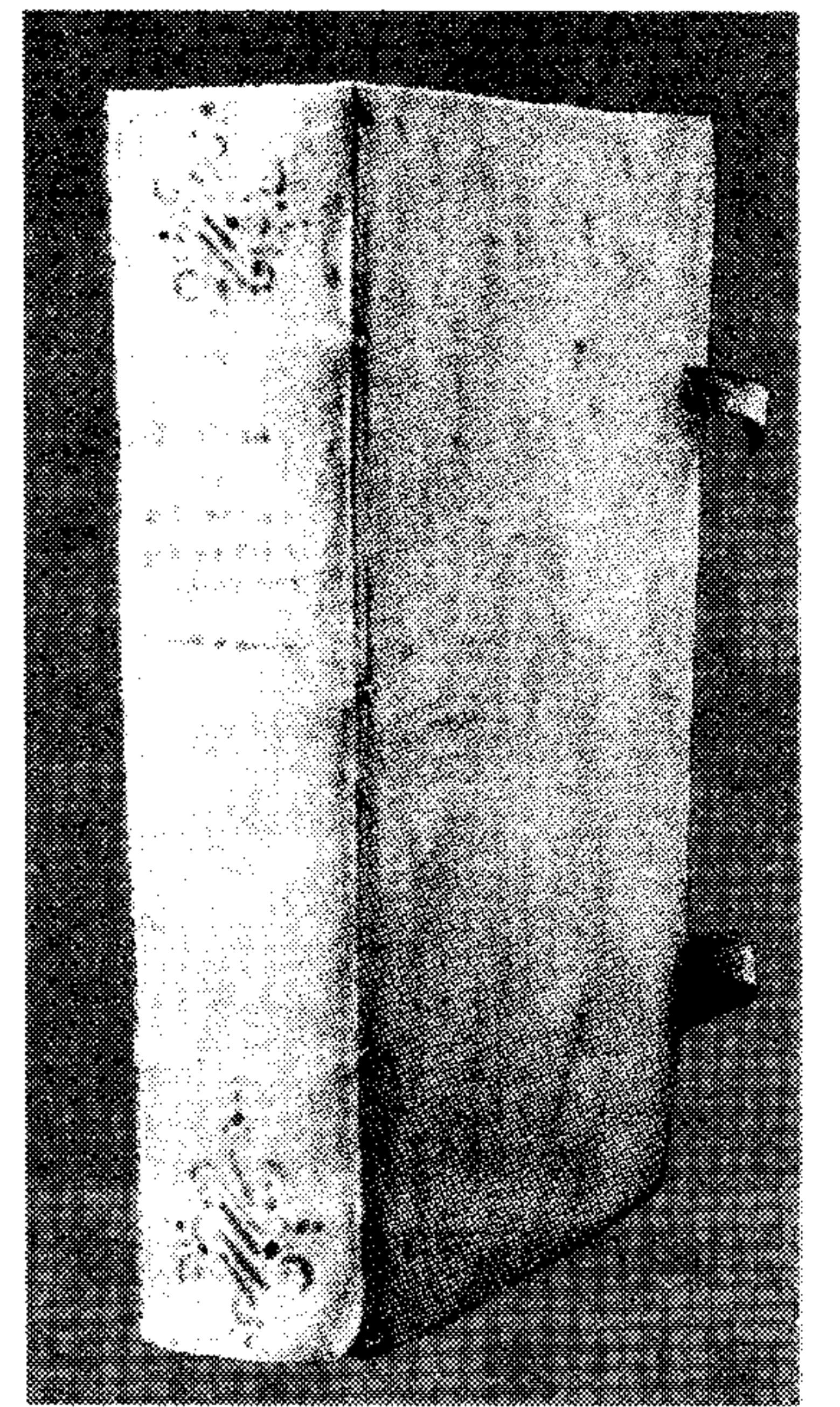
ルカ=パチョーリ(Luca Pacioli)は、中世イタリアの都市の商人が利用し発展させた企業帳簿の記録法である「複式簿記」を最初に「書物」のなかで紹介した人物として会計史上、評価されている。しかもその「書物」で明らかにされた「複式簿記」の基本的構造は、現代の企業も日々利用している記帳技術にそのまま受け継がれているのである。その「書物」こそ、専修大学図書館が購入した『算

portioni et Proportionalita)』初版1494年(以下「スُمマ」と略称)である。商人ごとの秘伝的扱いともなっていた「ヴェネチア式簿記法」が「スُمマ」を通じて一般に公開されたわけであるから、それが「複式簿記」の普及に果たした功績は計り知れない。その普及過程は、イタリア国内ばかりでなく、他のヨーロッパ諸国、アメリカ、そして明治期の日本にも繋がる。この意味でルカ=パチョ



ルカが49歳を迎えた1494年の11月10日から20日にかけてヴェネチアの印刷業者パガニーニの手によって印刷され出版された。「スُمマ」は、基本的に「(13世紀の数学者である)ピサのレオナルド以降に現れた多くの算法(実践的計算法)書の総決算とみなす」ことが可能とされる

することができるように、わたくしは本書においてすでに説明した事項に加えて、極めて必要ないま一つの特別な論説をここに執筆することにした。」(片岡義雄「増訂パチョーリ『簿記論』の研究【第二版】」森山書店45頁)
このことは、ルカが簿記を実用数学の



◀『スُمマ』背表紙。装丁は16世紀ヴェネチア式

◀前付8葉に続く、飾り枠のついた『スُمマ』本文冒頭ページ(右ページ)

ルカ=パチョーリの青年時代

ルカ=パチョーリは、1445年に北イタリアのアレッツォ州の小村ボルゴ・サン・セポルクロで生まれた。15歳のときに地元の実業家フォルコ=デ=ベフォルチ家に住み込み奉公に入り、このころから商業記録法を学び始めていたという。その後、同郷の画家であり、イタリア・ルネサンスを代表する芸術家でもあるピエロ=デッラ=フランチェスカのもとで数学を学び始めた。ピエロに数学の才能を認められたルカ=パチョーリは、数学研究の様々な機会を与えられた。一つは、地元領主であったウルビーノ公フェデリコ=ダ=モンテフェルトロへの紹介によってその館に付属していた図書館の利用を認められた。ルカはその子息グイドバルド

との交流も深めた。ウルビーノ公は、芸術を庇護する援助者(パトロン)としても有名であり、ルカはその恩恵を大いに受けることになる。

またピエロが続いて紹介した建築家レオン=バッテスタ=アルベルチの指示により19歳の時にヴェネチアの大商人アントニオ=デ=ロンピアジ家の三人の子息の数学家庭教師に任ぜられた。このことが、本格的にヴェネチア商人が行っていた商業実務(簿記を含む)に触れる機会をルカに与えることになった。同時にヴェネチア滞在中に数学の教師ドメニコ=プラガディノの門下として本格的に数学を学び、数学者として身を立てる決意をする。

「スムマ」を出版へ ルカ49歳

1475年にルカはフランチェスカ派僧団に入るが、これ以降、団則によりイタリ

ア各地の宮廷や大学で数学の講義をすることになった。「スムマ」のa丁のa1

の表側(現代的には17頁)や番号付紙葉198番裏のページに見られる絵文字に描かれたルカ=パチョーリが修道僧の装束を纏っているのはこのためである。

そして当時の学術論文で使用されたラテン語ではなく口語であるイタリア語によって記された「スムマ」初版第1刷は、

「スムマ」の「簿記」紹介部分(番号付紙葉198番裏から210番裏まで)の第1章において、ルカ=パチョーリが「スムマ」に「簿記」の紹介部分を載せた理由が次のように述べられている。

「仁篤なウルビーノ公殿下の庶民諸賢のために、或いはその必要とすることあるべき商人に関するすべての規則を会得

イルネサンスの芸術家として

「スムマ」は、1496年以降3年間、ミラノの宮廷及び大学で過ごしたルカが知己を得て親しくなったレオナルド=ダ=ヴィンチの研究活動にも影響を与え、レオナルドの残した研究メモには、ルカ=パチョーリの名前が多く書き留められている。また1497年にルカ=パチョーリが出

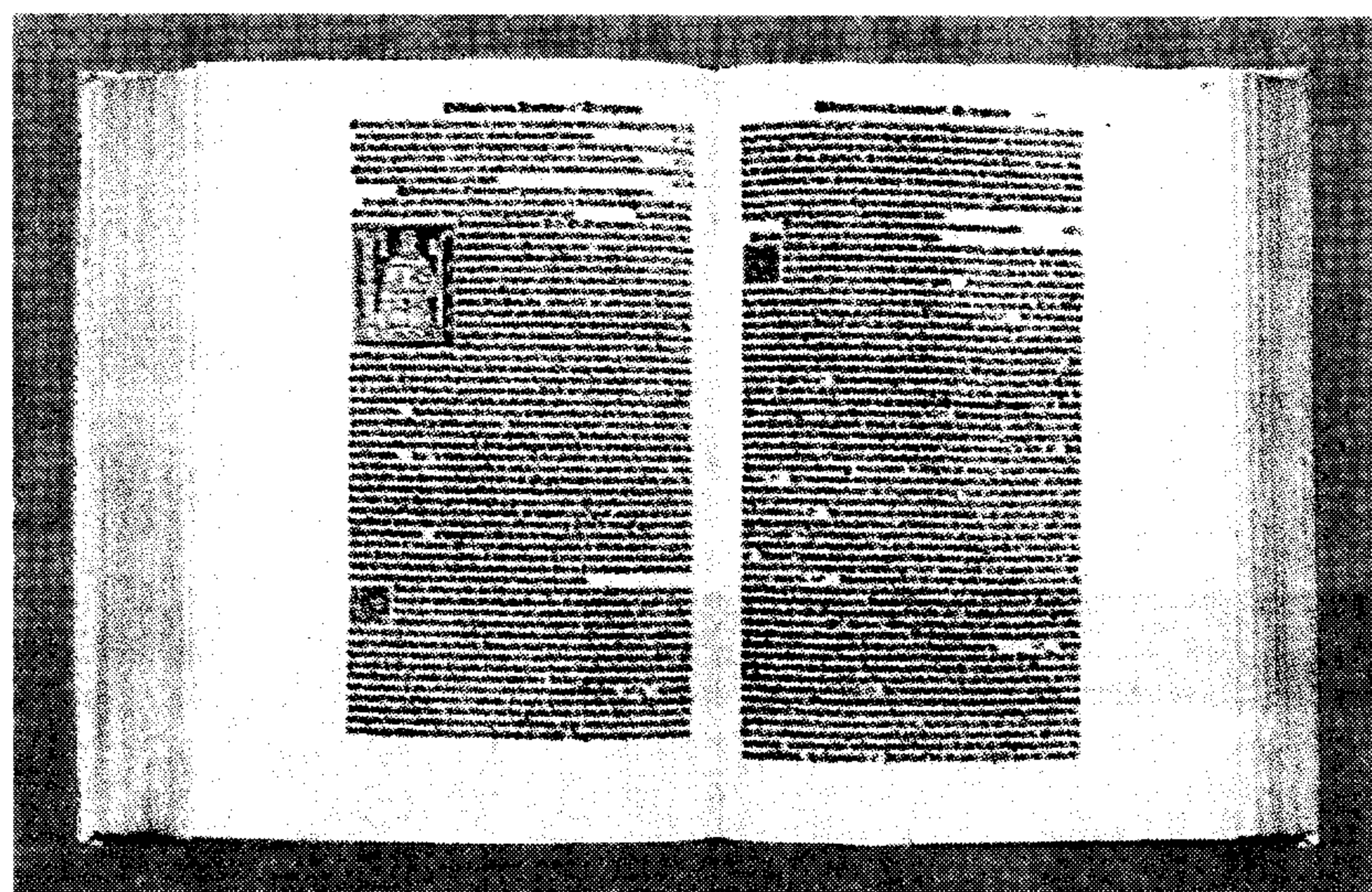
版した「神聖比例論」ではレオナルドによって描かれたとされる絵図が挿入されている。晩年のルカ=パチョーリは、生まれ故郷ボルゴ・サン・セポルクロの修道院総長代理として過ごし、1517年に72歳で亡くなった。

「スムマ」の書誌学的価値

「スムマ」は、イタリア・ルネサンスそのものを映し出す一つの鏡という役割を持ち始めている。西洋書誌学の側面から見ると、「スムマ」はインクナブラ(Incunabula)に属すると表現される。それは、「揺り籃の中にある状態」(東田全義『Accounting, Arithmetic & Art Journal』No.8 日本パチョーリ協会 1995.11 p.2)を意味し、グーテンベルクが聖書を活字印刷した1455年頃以降から15世紀中に印刷された書物を

さす。近代印刷の確立前の揺籃期本として西洋ではその所有が図書館の格式を決めるバロメータともなっている。

専修大学図書館が本書の購入に関心を持ち始めて30年以上が経過していると聞く。今後「スムマ」は、会計や商業関連文献ばかりか、イタリア・ルネサンス領域の文献資料収集の一つの核として機能するに違いない。それは「顔をもった図書館」構築への一齣といえるだろう。



▲ 最初の簿記を記述した「計算及び記録に関する詳説」冒頭ページ(左ページ)